



# 本町だより

横浜市立本町小学校 令和6年 5月31日 発行 第617号

## 6月 やさしい風に背中を押されて

校長 田川 斉史

5月25日の運動会の開催、ご協力ありがとうございました。

「やさしい風」という曲があります。横浜市内の小学校6年生（当時）が作詞をした曲で、合唱曲として親しまれていました。ある日の休み時間、ジャングルジムのてっぺんで空を見ている子どもがいました。静かに気持ちを整えているようにも見えました。チャイムが鳴ると一目散に教室に戻っていきました。

アジサイの花の咲く季節になりました。そして、いよいよ暑さとの闘いが始まる時期にもなりました。今月も健康で、楽しい学校生活のためのご支援とご協力をお願いします。



## 安全、安心な登下校を 家庭、「まち」に見守られて…

毎朝、たくさんの保護者、ご家庭のみなさん、そして「まち」の方々が、子どもたちの登校の「見守り」に力をお貸しくださっています。我が子を見送りながら、近所の子どもの声をかけながら、お勤めに向かうときにすれ違いながら、大人の目で子どもたちが見守られていることに、この「まち」のあたたかさを感じます。ありがとうございます。これからも、できるときにできる場所で支えてください。子どもたちの安全は大人の目で。学校では、感謝の気持ちも込めて「気持ちのよいあいさつをしよう」と指導しています。ご家庭でも一声を…。お願いします。



犯罪発生時に学校から発信できる情報は捜査にかかわるため非常に限られています。ご理解ください。

## 防災拠点、避難場所としての学校の役割

元日の夕方、能登半島を中心とした地震。復興の知らせは届いていますが、ライフラインの寸断、家屋の倒壊などを伴う自然災害は予告もなく襲ってきます。改めて、被災された方々、関係された方々にお見舞い申し上げます。地震という自然の力の大きさにあらためて驚異を感じるとともにその自然の力と向き合って生きていかなければならない人の営みについて考えざるを得ませんでした。被害やその驚異による影響を少なくする努力が教育の中にも求められると感じています。また、防災直後、継続する余震や被害状況の報道が続く中、数週間後には、避難所となった学校で、食料や飲料水を配ったり、お年寄りに声をかけ、肩をたたいたりする子どもたちの姿が映りました。子どもたち自身つらい状況にあっても、何とか力になりたいという姿です。困難な状況であってもお互いが支え合って生きる、こうした子どもたちを少しでも多く育てていきたいと思いました。

